

広報さとり



発行日:2024年7月30日(NO.038) 発行所:トヨタ自動車労働組合
発行人:近藤大輔 編集人:井出さとり 印刷所:(株)トヨタエンタプライズ

街の賑わいは誰かが作る じゃなくて、自分が主役で つくっていきこう!

先日、ウーブン・シティ最寄りの岩波駅の空き地を利用し「岩波フェスタ」が開催されました。これまで街の賑わいを作りたい!と感じていながらも「声を伝える側」が多かったことを猛省し、自らが「岩波商店会」のメンバーとして賑わいづくりに「加担」することに決めました。

商店会の若い店主が「やろうよ!」と始めた岩波フェスタ。手作り感満載で、歩行者天国にした道路ではビアガーデンが開催され、広場では子どもたちが椅子取りゲームを始める様子は、地区の祭りのような雰囲気でもっとも和やかな時間となりました。

一方で、賑わいを「提供する側」の苦勞が並々ならないことも同時に思い知ることができました。



提供する品数が多ければ、場は華やかになりますが、売れ残りのリスクなども同時に抱えることになります。投光器や発電機などを調達すれば費用が掛かり、小規模事業者の負担となります。

持続可能な賑わいづくりを実現するためには、お客さんの立場と、小規模事業者さんの立場を両方理解することが重要だと痛感しました!

今後も街の賑わいのために出来ることを探していきます。

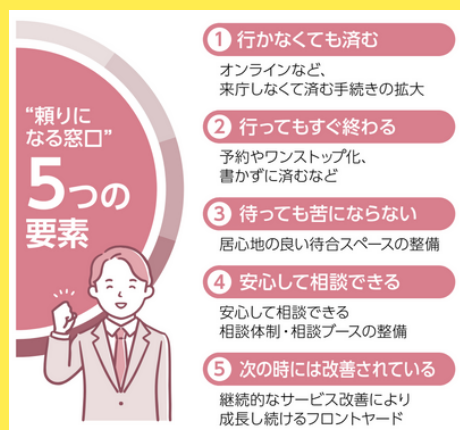
窓口改革は市役所の 働き方改革!期待大!

裾野市では行政サービスのDX化を進めており、日々改善が進んでいます。手続きが必要となった際には、まず市公式ウェブサイトを確認して、ご希望の手続きがオンラインで可能か確認すると良いと思います。さらに、時間と場所を選ばずに、スマホから市民課窓口のオンライン予約も可能です。

市民課では、窓口予約の導入や手続きの動線を見直すなど業務改善を繰り返し、待ち時間の短縮が実現しています。令和6度のゴールデンウィーク(繁忙期)の市民課の平均滞在時間は、令和5年度比で48%減になっています。

さらに、総務省の頼りになる窓口改革(自治体フロントヤード改革モデル)プロジェクトに、全国12自治体の一つとして選ばれました。日々、業務データや市民満足度を収集・分析して、継続的にサービス改善につなげ、日本一市民目線の市役所の実現を目指しています。

この改革が進んでいくと、行政のヒトモノカネの経営資源の効率的運用ができるようになることから大きく期待しています。



連合静岡)鈴木康友知事 をお招きし政策研究会と 意見交換を開催!

働く仲間で構成する、連合静岡沼三地協の議員
団会議が主催し、新しく静岡県知事に就任された鈴木
康友知事をお招きし、政策研究会と意見交換を
開催しました。

静岡県東部の課題として多くの自治体議員から
提起されたのは、①機動力を発揮した産業誘致に
向けた土地利用の改善、②インバウンドの回復チャ



ンスを地域の振興に繋げるための観光産業政策
の推進、③富士山噴火、地震、異常気象などの災
害に強いまちづくりへの備え、などの政策提言が
出されました。

自由懇談では、鈴木康友知事、沼三地協議長、
議員団会議会長からも、共に「連携を密にして、コ
ミュニケーションの質を高めていくことが重要」と
の共通した見解を示し、今後、連合沼三との連携
により静岡県が働く者にとって働きやすく、住みや
すい県づくりを目指していく事を確認した、前向
きな政策研究会、意見交換となりました。

報告)神奈川県南足柄市の道の駅を視察

会派で神奈川県南足柄市の「道の駅足柄・金太
郎のふるさと」を視察させて頂きました。

あらゆるモノが、コンビニやインターネットで容
易に手に入る現代において、「そこに行かなければ
味わうことができない、手に入らない」という「コト
消費」「着地型観光」による魅力創出は、静岡県東
部地域の魅力を発信し、地域を活力創出のためにも、
道の駅の設置は重要な政策となります。

視察先では、平日の視察にも関わらず、次から
次へと訪れるお客さまと、混み合う物販やレストラ
ンに、コンテンツの魅力と、それを引き出す戦略的
な情報発信が、集客力の源泉であることを改めて
実感しました。

施設の運営事業者との連携で、コロナ禍の令和
2年6月開業という困難な状況を跳ね除け、年間
65万人!が訪れるスポットへと成長させ、今年度も
来場者記録の更新が見込まれています。



これまで会派として「仮称」富士山すその川の
駅」の必要性や、観光拠点の場のチカラを引き出
すための「市街化調整区域における立地基準」の
見直しなど、関連する施策の提言もしていますが、
裾野市が設置を目指す道の駅に関連する政策の
総点検、総動員が必要だと感じています。